

魚介類の核種分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内海域>
 2017年度 第1四半期採取分

【魚介類のSr-90(半減期 約29年)測定結果】

試料名 (部位)	採取場所 (地点番号)	採取日	試料濃度 (Bq/kg (生)) (半減期)	
			Sr-90*1 (約29年)	参考*1 (Cs-134とCs-137 の合計)
ババガレイ(全体) *3	木戸川沖合2km付近(T-S5)	2017年4月17日	0.48	16
コモンカスベ(全体) *2	木戸川沖合2km付近(T-S5)	2017年6月6日	0.48	20
コモンカスベ(全体) *2	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2017年4月17日	0.53	17
ババガレイ(全体) *3	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2017年4月17日	0.43	13
キツネメバル(全体) *2	2F敷地沖合2km付近(T-S7)	2017年5月17日	0.079	20
ババガレイ(全体) *3	熊川沖合4km付近(T-S8)	2017年4月11日	0.28	15

*1 セシウムは可食部(筋肉)で測定、ストロンチウムは骨を含む魚全体(内臓以外)で測定。

基準値(2012年4月1日以降) Cs-134、Cs-137の合計: 100Bq/kg。

*2 Sr-90分析は、株式会社環境総合テクノスにて実施。

*3 Sr-90分析は、一般財団法人九州環境管理協会にて実施。

魚介類の核種分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内海域>

2017年度 第1四半期採取分

【魚介類のトリチウム(半減期約12年)測定結果】採取場所(地点番号):熊川沖合4km付近(T-S8)

試料名 (部位)	採取日	トリチウム濃度 (Bq/L)		トリチウム濃度(Bq/kg(生))		参考 Cs-134とCs-137の 合計(Bq/kg(生))
		組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型	
ヒラメ(筋肉)	2017年4月11日	0.086	ND(0.44)	0.068	ND(0.059)	ND
ヒラメ(筋肉)	2017年5月9日	0.070	ND(0.26)	0.055	ND(0.039)	ND
ヒラメ①(筋肉)	2017年6月15日	0.078	ND(0.26)	0.061	ND(0.038)	ND

<参考>

	採取日	トリチウム濃度 (Bq/L)
熊川沖合4km付近 (T-S8) 海水	2017年4月10日	0.072
	2017年5月8日	0.071
	2017年6月14日	0.077

※ 基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計:食品1kgあたり100ベクレル

※ トリチウム分析は一般財団法人九州環境管理協会にて実施。

* 可食部(筋肉)で測定

* 組織自由水型トリチウムとは魚の筋肉に含まれる水分に含まれるトリチウムをいい、魚が生息する海水中のトリチウム濃度と比較される。

有機結合型トリチウムとは乾燥させた魚の筋肉に含まれるトリチウムをいい、乾燥させた魚の筋肉を燃焼させたときに発生する水に含まれるトリチウム濃度をあらわす。

* 測定結果は有効数字2桁で記載。

* NDは検出限界値未満を表し、括弧内は検出限界値。